

東村 橋梁長寿命化修繕計画 (令和4年度改定)



東村HPより

令和5年2月



東村 建設環境課

1. 東村の概要	1
2. 長寿命化修繕計画の背景と目的	1
3. 長寿命化修繕計画の対象橋梁	1
4. 長寿命化修繕計画の基本方針	3
5. 事業の効率化・費用の縮減に関する方針	3
6. 集約化・撤去に関する方針	3
7. 健全性の診断	4
8. 管理橋梁の状態及び点検結果について	4
9. 修繕優先度の設定	6
10. 修繕優先度一覧	7
11. 事業計画一覧	8

1. 東村の概要

(1) 気 候

東村は亜熱帯海洋性気候に属し、年平均気温は23.4℃、年間降水量は2,000mm程度と、温暖多湿となっています。

また、夏から秋にかけて襲来する台風と灯籠の季節風は、海から内陸に運ばれる塩分による塩害を受けやすい自然環境にあります。

(2) 地理的特徴

東村は沖縄本島北部の東海岸側の北緯26度37分、東経128度9分に位置し、北は国頭村と大宜味村、南は名護市と接し、南東は太平洋に面しています。

村域は南北26km、東西4～8kmで、面積は81.88kmの細長い形で全体的に山地丘陵地となっており、総面積の約73%が山林原野で占められ、約10%が農耕地、宅地は0.6%です。

河川は豊かな森林に源を発する大小 14 の河川があり、これらの河口部に位置する海岸沿いの低地部に有銘・慶佐次・平良・川田の 4 集落があり、宮城・高江は高台に立地しています。

また、村内の河川のうち主なものとして新川川・福地川・慶佐次川・有銘川がありますが、このうち新川川と福地川には国のダムが築かれ、中でも福地ダムは北部三村6ダムの中核として県内最大規模のダムとなっています。

2. 長寿命化修繕計画の背景と目的

(1) 背 景

東村が管理する橋梁は、令和4年現在で18橋（橋長2m以上）で、そのうち15m以上の橋梁は5橋、15m未満の橋梁は13橋となります。

道路は市民生活を支える非常に重要な社会基盤であり、ネットワークが維持されてこそ、その機能が発揮されます。しかしながら、これらの橋梁の大半が老朽化していくなかで、従来の対症療法型の維持管理を続けた場合、橋梁の修繕等に要する維持管理コストが増大するものと考えられます。

(2) 目 的

このような背景から、村民の安全で安心な生活を確保するため、従来の対症療法型の管理から、予防保全型の維持管理へと転換を図ることにより、橋梁の維持管理費の縮減を図るとともに、限られた予算の中で効率的かつ効果的に橋梁の維持管理を行い、健全な道路ネットワークを保全することを目的に「橋梁長寿命化修繕計画」を策定しました。

3. 長寿命化修繕計画の対象橋梁

	1級	2級	その他	合計
橋長15m以上	0	0	5	5
橋梁15m未満	1	9	3	13
合 計	1	9	8	18

No.	橋梁名・函渠名	路線名	所在地	構造形式	架設年次 (西暦)	供用 年数	橋長 [m]	幅員 [m]	径 間 数	道路等級
1	1号ボックスカルバート	有銘福地線	有銘	RCボックスカルバート	1975年	47年	2.50	6.14	1	2級
2	1号橋	椎原線	平良	RC単純T桁橋	1984年	38年	9.40	6.00	1	2級
3	2号橋	椎原線	平良	RC単純T桁橋	1984年	38年	8.40	6.00	1	2級
4	3号橋	椎原線	平良	RC単純T桁橋	1984年	38年	8.40	6.00	1	2級
5	花見橋	福地ダム循環線	平良	プレテンション方式 PC単純T桁橋	1997年	25年	21.00	13.40	1	その他
6	公園橋	平良2号線	平良	RC 単純中空床版橋	1982年	40年	18.70	8.20	1	その他
7	古島橋	古島線	宮城	ポストテンション方式 PC単純T桁橋	1985年	37年	19.50	6.20	1	その他
8	福地橋	福地線	川田	ポストテンション方式 PC単純中空床版橋	2004年	18年	31.70	7.70	1	その他
9	上福地橋	福地線	川田	ポストテンション方式 PC単純中空床版橋	1985年	37年	30.80	3.80	1	その他
10	1号橋	牛道線	高江	RC単純床版橋	1975年	47年	2.62	4.52	1	その他
11	2号ボックスカルバート	知名又線	有銘	RCボックスカルバート	1975年	47年	2.50	18.55	1	1級
12	2号ボックスカルバート	照久線	有銘	PCボックスカルバート	1975年	47年	3.00	21.97	1	2級
13	1号ボックスカルバート	屋ノ北1号線	平良	RCボックスカルバート	1982年	40年	2.70	7.50	1	2級
14	3号ボックスカルバート	屋ノ北1号線	平良	RCボックスカルバート	1982年	40年	2.00	8.00	1	2級
15	1号ボックスカルバート	中原線	平良	PCボックスカルバート	1982年	40年	2.00	4.40	1	2級
16	1号ボックスカルバート	宇出那覇2号線	平良	RCボックスカルバート	1985年	37年	4.50	8.00	1	その他
17	2号ボックスカルバート	越地線	平良	RCボックスカルバート	1975年	47年	2.05	5.76	1	その他
18	久美橋	有銘福地線	有銘	プレテンション方式 PC中空床版橋	2018年	4年	12.00	6.20	1	2級

4. 長寿命化修繕計画の基本方針

(1) 健全度の把握の基本的方針

健全度の把握は、最新版の「道路橋定期点検要領」（国土交通省 道路局）に基づく点検を定期的実施し、橋梁の損傷状況を踏まえ継続的に健全度の把握を行っていきます。

また、点検に当たっては55%の橋梁で新技術等の活用を検討し、費用の縮減や効率化に取り組むことを目標とします。

(2) 日常的な維持管理に関する基本的な方針

橋梁を良好な状態に保つため、日常的な維持管理としてパトロール等を実施し、橋梁の安全性を確認していきます。

(3) 計画期間及び計画の見直し時期

当該橋梁長寿命化修繕計画の計画期間は令和5年度から令和14年度までの10年間とし、5年に1回の定期点検を踏まえて、適宜管理方針・評価の見直しを行います。

5. 事業の効率化・費用の縮減に関する方針

(1) 費用の縮減に関する方針

損傷が深刻化してから大規模な修繕（架替え等）を行う事後保全から、損傷が軽微なうちに修繕を行う予防保全へと転換し、大規模な修繕・更新（架替え）の抑制によるLCC（ライフサイクルコスト）の縮減を図るための日常的な維持管理を検討し、今後10年間に係る費用を、30%（5百万円）縮減することを目標とします。

(2) 新技術の活用

事業の効率化・費用の縮減を推進していくため、新技術を積極的に活用し、以下の取り組みを行います。

- 1) 点検の実施においては、新技術の活用可能性について検討を行い、コスト縮減など効果が認められる場合には、新技術の活用を図り10年間で約100万円の縮減を目標とします。
- 2) 補修の実施においては、補修工法や補修材料に新技術適用を検討し、補修設計及び、施工時に積極的な活用を図り、10年間で約100万円のコスト縮減を目標とします。

6. 集約化・撤去に関する方針

(1) 橋梁の集約化・撤去

社会経済情勢や施設の利用状況の変化、施設周辺道路の整備状況に応じて、橋梁の集約化・撤去および機能縮小などによる費用縮減について、以下の取り組みの検討を行います。

- 1) 新設道路が完成した際には、周辺道路に架かる橋梁については、利用状況や迂回距離、災害時の避難、隣接家屋・施設等へのアクセス状況などを踏まえ、集約化・撤去の検討を行います。
- 2) 付近に集落もなく、利用頻度の低い橋梁において撤去の検討を行い、修繕及び点検に係る費用（1千万円）縮減することを目標とします。

7. 健全性の診断

道路橋定期点検要領では、今後管理者が執るべき対策を判断するための総合的な評価である「健全性の診断」を行うこととなっており、この診断は、各損傷に対して維持・補修等の計画を検討する上で必要な評価となります。

表一 健全性の診断における判定区分

区分		状態
I	健全	・ 損傷が認められないか、損傷があり補修の必要があるものの、損傷の原因、規模が明確であり、直ちに補修するほどの緊急性はなく、放置しても少なくとも次回の定期点検まで（＝5年程度以内）に構造物の安全性が著しく損なわれることはない判断できる状態。
II	予防保全段階	・ 損傷が進行しており、耐久性確保（予防保全）の観点から修繕計画に合わせながら適切な時期に補修等される必要があると判断できる状態。なお、橋梁構造の安全性の観点からは、直ちに補修するほどの緊急性はないもの。
III	早期措置段階	・ 損傷が相当程度進行し、当該部位、部材の機能や安全性の低下が著しく、橋梁構造の安全性の観点から劣化の状態や進行状況に合わせ早期（＝5年程度以内）に補修等される必要があると判断できる状態。
IV	緊急措置段階	・ 構造物の機能に支障が生じている、又は生じる可能性が著しく高く、即時通行規制や応急措置など、緊急に何らかの安全措置を行う必要がある状態。

8. 管理橋梁の状態及び点検結果について

令和5年2月現在

健全性		I		II		III	IV		計
対策区分		A	B	C1	M	C2	E1	E2	
種別	1級	0	0	1	0	0	0	0	1
	2級	1	8	0	0	0	0	0	9
	その他	0	6	2	0	0	0	0	8
区分計		1	14	3	0	0	0	0	18
計		15		3		0	0		18
割合		83%		17%		0%	0%		100%

(1) 修繕措置の着手状況

早急に修繕措置を行う必要がある橋梁はありません。
次回点検時に再検討を行います。

点検結果総括表

3) 点検結果一覧表(令和5年2月現在)

1/1

番号 (No.)	路線名	橋梁名・溝橋名	所在地	構造形式	架設年度 (供用年数)	供用 年数	橋長 [m]	幅員 [m]	径 間 数	部材単位の診断(上部:橋梁 下部:溝橋)						橋梁毎の 健全性の 診断	対策 区分 の評価	点検 年度		
										主桁 頂版	橋桁 側壁	床版 底版	下部構造 翼壁	支承部 継手	その他				主な変状と部材 対象部材	変状の種類
1	有銘福地線	1号ボックススカルバート	有銘	RCボックススカルバート	1975年	47年	2.50	6.14	1	I(B)	I(B)	I(B)	-	-	II(M)	頂版・側壁	ひびわれ	I	B	R04
2	椎原線	1号橋	平良	RC単純T桁橋	1984年	38年	9.40	6.00	1	I(B)	I(B)	I(A)	I(B)	I(A)	II(M)	橋面	土砂堆積	I	B	R04
3	椎原線	2号橋	平良	RC単純T桁橋	1984年	38年	8.40	6.00	1	I(B)	I(A)	I(B)	I(B)	I(A)	II(M)	橋面	土砂堆積	I	B	R04
4	椎原線	3号橋	平良	RC単純T桁橋	1984年	38年	8.40	6.00	1	I(B)	I(B)	I(B)	I(B)	I(A)	I(A)	主桁・橋桁・床版	ひびわれ	I	B	R04
5	福地ダム循環線	花見橋	平良	プレテンション方式 PC単純T桁橋	1997年	25年	21.00	13.40	1	I(B)	I(B)	I(A)	I(B)	I(A)	II(M)	橋面	土砂堆積	I	B	R04
6	平良2号線	公園橋	平良	RC 単純中空床版橋	1982年	40年	18.70	8.20	1	II(C1)	-	-	I(A)	I(A)	II(M)	主桁	ひびわれ	II	C1	R04
7	古島線	古島橋	宮城	ポストテンション方式 PC単純T桁橋	1985年	37年	19.50	6.20	1	II(C1)	I(B)	I(B)	II(C1)	I(A)	II(M)	主桁	ひびわれ	II	C1	R04
8	福地線	福地橋	川田	ポストテンション方式 PC単純中空床版橋	2004年	18年	31.70	7.70	1	I(B)	-	I(B)	I(B)	I(A)	II(M)	防護柵	ボルトの脱落	I	B	R04
9	福地線	上福地橋	川田	ポストテンション方式 PC単純中空床版橋	1985年	37年	30.80	3.80	1	I(B)	-	I(B)	I(B)	I(A)	II(M)	橋面	土砂詰まり	I	B	R04
10	牛道線	1号橋	高江	RC単純床版橋	1975年	47年	2.62	4.52	1	I(B)	-	-	I(B)	I(A)	II(M)	主桁	うき・欠損	I	B	R04
11	知名又線	2号ボックススカルバート	有銘	RCボックススカルバート	1975年	47年	2.50	18.55	1	II(C1)	I(B)	I(A)	-	I(B)	II(M)	頂版	ひびわれ	II	C1	R04
12	照久線	2号ボックススカルバート	有銘	PCボックススカルバート	1975年	47年	3.00	21.97	1	I(B)	I(B)	I(A)	-	I(A)	I(B)	頂版	うき 漏水・遊離石灰	I	B	R04
13	屋ノ北1号線	1号ボックススカルバート	平良	RCボックススカルバート	1982年	40年	2.70	7.50	1	I(B)	I(B)	I(B)	-	-	I(B)	頂版	うき・欠損	I	B	R04
14	屋ノ北1号線	3号ボックススカルバート	平良	RCボックススカルバート	1982年	40年	2.00	8.00	1	I(A)	I(B)	I(A)	-	-	I(B)	側壁	すり減り	I	B	R04
15	中原線	1号ボックススカルバート	平良	PCボックススカルバート	1982年	40年	2.00	4.40	1	I(B)	I(B)	I(A)	-	I(A)	II(M)	頂版	欠損	I	B	R04
16	宇出那覇2号線	1号ボックススカルバート	平良	RCボックススカルバート	1985年	37年	4.50	8.00	1	I(B)	I(A)	I(B)	-	-	II(M)	頂版	うき・ひびわれ	I	B	R04
17	越地線	2号ボックススカルバート	平良	RCボックススカルバート	1975年	47年	2.05	5.76	1	I(B)	I(B)	I(B)	-	-	II(M)	頂版・側壁	ひびわれ	I	B	R04
18	有銘福地線	久美橋	有銘	プレテンション方式 PC中空床版橋	2018年	4年	12.00	6.20	1	I(A)	I(A)	I(A)	I(A)	I(A)	I(A)	なし	なし	I	A	R04

判定区分: I (健全)

・損傷があり補修の必要があるもの、損傷の原因、規模が明確であり、直ちに補修するほどの緊急性がなく、放置しても少なくとも次回定期点検まで(=5年程度以内)に構造物の安全性が著しく損なわれることはない判断できる状態。

判定区分: II (予防保全段階)

・損傷が進行しており、耐久性確保(予防保全)の観点から修繕計画に合わせながら適切な時期に補修等される必要があると判断できる状態。なお、橋梁構造の安全性の観点からは、直ちに補修するほどの緊急性はないもの。

判定区分: III (早期措置段階)

・損傷が相当程度進行し、当該部位、部材の機能や安全性の低下が著しく、橋梁構造の安全性の観点から劣化の状態や進行状況に合わせ早期に補修等される必要があると判断できる状態。

判定区分: IV (緊急措置段階)

・即時の通行規制や応急措置など、即時に何らかの安全措置を行う必要がある状態。

表-1 橋梁定期点検要領における対策区分の判定区分

健全性	区分		判定の内容
	対策区分		
I	A		損傷が認められないか、損傷が軽微で補修を行う必要がない。
	B		状況に応じて補修を行う必要がある。
	C1		予防保全の観点から、速やかに補修等を行う必要がある。
II	M		維持工事に対応する必要がある。
	C2		橋梁構造の安全性の観点から、速やかに補修等を行う必要がある。
III	E1		橋梁構造の安全性の観点から、緊急対応の必要がある。
	E2		その他、緊急対応の必要がある。
IV	S1		詳細調査の必要がある。
	S2		追跡調査の必要がある。

9. 修繕優先度の設定

橋梁を効率的に維持管理していくため、対策を行う優先順位をルール化しました。優先順位は、各橋梁の「健全性」と「重要性」から判断します。

(1) 橋梁の健全性

健全度の評価は点検結果をもとに、橋梁に求められる「耐荷性」「災害抵抗性」「走行安全性」で評価をします。

評価が同等な場合は、重要度の高いものを優先します。

(2) 橋梁の重要性

重要性は、橋梁の諸元や架設環境、交差条件、路線の利用状況などから橋梁毎に評価をします。

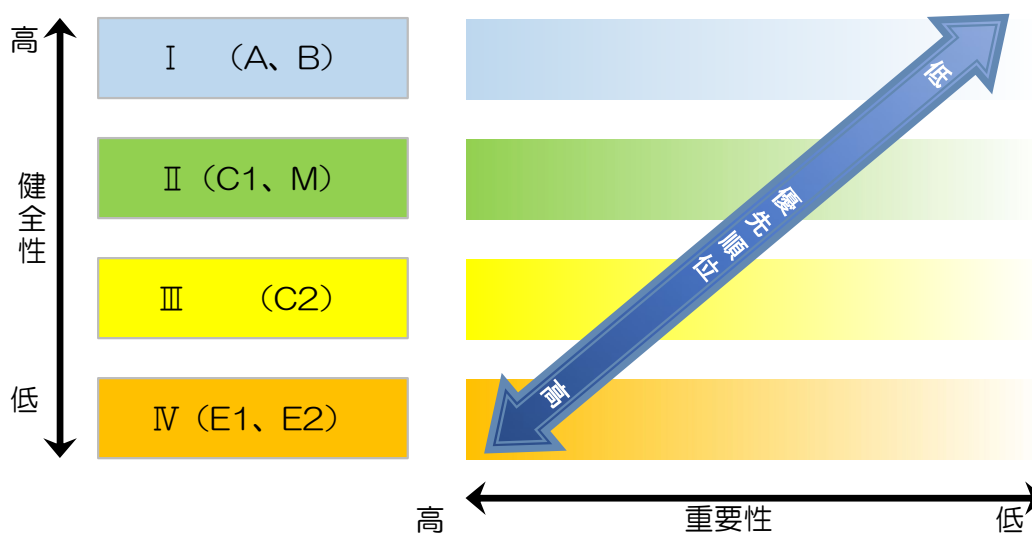
(3) 修繕優先度の設定

修繕優先度は橋梁の損傷度評価点（損傷度＝100－健全度）と重要度評価点の合計で評価します。

なお、合計する場合は係数を設定しており損傷度に重みを置いて評価します。

（損傷度：重要度＝6（ α ）：4（ β ））

$$\text{修繕優先度} = \alpha \times (100 - \text{健全度}) + \beta \times \text{重要度}$$



健全性と重要性を考慮した優先順位

(4) 目標

橋梁の維持管理を効率的に行うことを目標に、修繕優先度の高い橋梁からから措置を行い、予防保全段階、健全へと移行していくことを目標とします。

表4-5修繕優先度評価結果一覧

修繕優先順位	橋梁名・溝橋名	路線名称	所在地	架設年次	供用年数	径間数	橋長(m)	健全性の診断	対策区分の評価	各重要度評価項目の評価点								各評価指標の評価点			健全度評価点	健全度順位	修繕評価点 優先度				
										各重要度評価項目の評価点								重要度評価点	重要度順位	耐荷性				災害抵抗性	走行安全性		
										アーク(緊急輸送道路)	道路等級	バス路線	迂回路の有無	観光地	塩害地域	竣工年時	橋長									交差条件	立地条件
1	古島橋	古島線	宮城	1985年	37年	1	19.50	II	C1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	6.0	2.5	4.8	0.0	0.0	13.3	8	71.20	56.70	44.50	60.04	1	29.30
2	2号ボックスカルバート	知名又線	有銘	1975年	47年	1	2.50	II	C1	17.0	4.0	0.0	5.0	0.0	6.0	2.5	0.0	0.0	0.0	34.5	1	74.00	82.00	74.00	77.20	2	27.48
3	花野橋	福地ダム循環線	平良	1997年	25年	1	21.00	I	B	17.0	0.0	2.0	0.0	3.0	6.0	0.0	4.8	0.0	0.0	32.8	2	86.20	85.90	48.50	78.54	5	26.00
4	公園橋	平良2号線	平良	1982年	40年	1	18.70	II	C1	17.0	0.0	0.0	0.0	0.0	6.0	2.5	4.8	0.0	0.0	30.3	3	80.00	92.00	44.00	77.60	3	25.56
5	福地橋	福地線	川田	2004年	18年	1	31.70	I	B	17.0	0.0	0.0	0.0	0.0	3.0	0.0	4.8	0.0	0.0	24.8	6	83.00	85.00	67.00	80.60	8	21.56
6	2号ボックスカルバート	照久線	有銘	1975年	47年	1	3.00	I	B	17.0	2.0	0.0	0.0	0.0	6.0	2.5	0.0	0.0	0.0	27.5	4	84.00	86.00	88.00	85.60	14	19.64
7	上福地橋	福地線	川田	1985年	37年	1	30.80	I	B	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	3.0	2.5	4.8	0.0	0.0	10.3	16	81.00	84.00	65.70	79.14	7	16.64
8	2号橋	権原線	平良	1984年	38年	1	8.40	I	B	0.0	2.0	0.0	0.0	0.0	6.0	2.5	0.0	0.0	0.0	10.5	10	83.00	85.70	57.30	78.94	6	16.84
9	3号橋	権原線	平良	1984年	38年	1	8.40	I	B	0.0	2.0	0.0	5.0	0.0	6.0	2.5	0.0	0.0	0.0	15.5	7	76.80	83.30	86.50	81.37	10	17.38
10	1号橋	権原線	平良	1984年	38年	1	9.40	I	B	0.0	2.0	0.0	0.0	0.0	6.0	2.5	0.0	0.0	0.0	10.5	10	81.30	85.00	56.30	78.20	4	17.28
11	1号橋	牛道線	高江	1975年	47年	1	2.62	I	B	0.0	0.0	0.0	5.0	0.0	3.0	2.5	0.0	0.0	0.0	10.5	10	84.00	86.00	64.00	80.80	9	15.72
12	1号ボックスカルバート	有銘福地線	有銘	1975年	47年	1	2.50	I	B	0.0	2.0	0.0	5.0	0.0	3.0	2.5	0.0	0.0	0.0	12.5	9	84.00	86.00	72.00	82.40	12	15.56
13	3号ボックスカルバート	屋ノ北1号線	平良	1982年	40年	1	2.00	I	B	17.0	2.0	0.0	0.0	0.0	6.0	2.5	0.0	0.0	0.0	27.5	4	96.00	90.00	92.70	92.94	17	15.24
14	1号ボックスカルバート	宇出那野2号線	平良	1985年	37年	1	4.50	I	B	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	6.0	2.5	0.0	0.0	0.0	8.5	18	88.00	86.00	59.30	81.47	11	14.52
15	2号ボックスカルバート	越地線	平良	1975年	47年	1	2.05	I	B	0.0	0.0	0.0	5.0	0.0	3.0	2.5	0.0	0.0	0.0	10.5	10	84.00	86.00	82.00	84.40	13	13.56
16	1号ボックスカルバート	屋ノ北1号線	平良	1982年	40年	1	2.70	I	B	0.0	2.0	0.0	0.0	0.0	6.0	2.5	0.0	0.0	0.0	10.5	10	88.00	86.00	83.30	86.27	15	12.44
17	1号ボックスカルバート	中原線	平良	1982年	40年	1	2.00	I	B	0.0	2.0	0.0	0.0	0.0	6.0	2.5	0.0	0.0	0.0	10.5	10	86.00	86.00	90.70	86.94	16	12.04
18	久美橋	有銘福地線	有銘	2018年	4年	1	12.00	I	A	0.0	2.0	0.0	5.0	0.0	3.0	0.0	0.0	0.0	10.0	17	100.00	100.00	100.00	100.00	18	4.00	

事業計画一覧

【凡例】更新：架橋工事 修繕：補修・補強工事 監視：点検毎に修繕の必要性を判断

修繕優先順位	橋梁名	路線名称	橋長 (m)	幅員 (m)	橋面積 (m ²)	架設年次	供用年数 2021年現在	最新点検年次	橋梁毎の健全性の診断	措置状況	事業費 (千円)										備考		
											2022年 R4	2023年 R5	2024年 R6	2025年 R7	2026年 R8	2027年 R9	2028年 R10	2029年 R11	2030年 R12	2031年 R13		2032年 R14	
1	古島橋	古島線	19.5	6.2	120.9	1985年	37年	R04	II	予防保全段階 (監視)	551	0	0	0	0	551	0	0	0	0	0	551	次回点検時に判断
2	2号ボックスカルバート	知名文線	2.5	18.6	46.4	1975年	47年	R04	II	予防保全段階 (監視)	261	0	0	0	0	261	0	0	0	0	0	261	次回点検時に判断
3	花見橋	福地ダム循環線	2.10	13.4	281.4	1997年	25年	R04	I	措置不要	624	0	0	0	0	624	0	0	0	0	0	624	メンテナンスにて対応
4	公園橋	平良2号線	18.7	8.2	153.3	1982年	40年	R04	II	予防保全段階 (監視)	551	0	0	0	0	551	0	0	0	0	0	551	次回点検時に判断
5	福地橋	福地線	31.7	7.7	244.1	2004年	18年	R04	I	措置不要	636	0	0	0	0	636	0	0	0	0	0	636	メンテナンスにて対応
6	2号ボックスカルバート	照久線	3.0	22.0	65.9	1975年	47年	R04	I	措置不要	261	0	0	0	0	261	0	0	0	0	0	261	
7	上福地橋	福地線	30.8	3.8	117.0	1985年	37年	R04	I	措置不要	636	0	0	0	0	636	0	0	0	0	0	636	
8	2号橋	椎原線	8.4	6.0	50.4	1984年	38年	R04	I	措置不要	526	0	0	0	0	526	0	0	0	0	0	526	
9	3号橋	椎原線	8.4	6.0	50.4	1984年	38年	R04	I	措置不要	267	0	0	0	0	267	0	0	0	0	0	267	
10	1号橋	椎原線	9.4	6.0	56.4	1984年	38年	R04	I	措置不要	526	0	0	0	0	526	0	0	0	0	0	526	
11	1号橋	牛道線	2.6	4.5	11.8	1975年	47年	R04	I	措置不要	251	0	0	0	0	251	0	0	0	0	0	251	
12	1号ボックスカルバート	有紀福地線	2.5	6.1	15.4	1975年	47年	R04	I	措置不要	229	0	0	0	0	229	0	0	0	0	0	229	
13	3号ボックスカルバート	鷹ノ北1号線	2.0	8.0	16.0	1982年	40年	R04	I	措置不要	229	0	0	0	0	229	0	0	0	0	0	229	

事業計画一覧

【凡例】更新：架替工事 修繕：補修・補強工事 監視：点検毎に修繕の必要性を判断

修繕 優先 順位	橋梁名	路線名称	橋長 (m)	幅員 (m)	橋面積 (m ²)	架設 年次	供用 年数 2021年 現在	最新 点検 年次	橋梁毎の 健全性の 診断	措置状況	事業費(千円)											備考		
											2022年 R4	2023年 R5	2024年 R6	2025年 R7	2026年 R8	2027年 R9	2028年 R10	2029年 R11	2030年 R12	2031年 R13	2032年 R14			
14	1号ボックスカルバート	宇出那覇2号線	4.5	8.0	36.0	1985年	37年	R04	I	措置不要	229	0	0	0	0	229	0	0	0	0	0	229	定期点検	
15	2号ボックスカルバート	越地線	2.1	5.8	11.8	1975年	47年	R04	I	措置不要	229	0	0	0	0	229	0	0	0	0	0	229	定期点検	
16	1号ボックスカルバート	屋ノ北1号線	2.7	7.5	20.3	1982年	40年	R04	I	措置不要	229	0	0	0	0	229	0	0	0	0	0	229	定期点検	
17	1号ボックスカルバート	中原線	2.0	4.4	8.8	1982年	40年	R04	I	措置不要	229	0	0	0	0	229	0	0	0	0	0	229	定期点検	
18	久美橋	有銘福地線	12.0	6.2	74.4	2018年	4年	R04	I	措置不要	513	0	0	0	0	513	0	0	0	0	0	513	定期点検	平成30年度更新済
											6,977	0	0	0	0	6,977	0	0	0	0	0	6,977		